

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号： 32696
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520055
 研究課題名（和文） 日本中世禅宗相伝資料の研究
 研究課題名（英文） A study of 'soden' material of the Japanese medieval Zen Buddhism
 研究代表者
 安藤 嘉則（ANDO YOSHINORI）
 駒沢女子大学・人文学部・教授
 研究者番号：30259030

研究成果の概要（和文）：

本研究は従来、秘書とされてきた禅宗の相伝資料について臨済宗と曹洞宗に分けて調査し、文献の把握と撮影等による資料収集、ならびに資料整理と分析を実施した。臨済宗については松ヶ岡文庫蔵書目録の目録作成（データ資料）・『中世禅宗における公案禅の研究』を刊行した。また曹洞宗については各寺院栃木・大中寺、茨城・杲泰寺、埼玉・西光寺といった曹洞宗寺院に所蔵される写本等を撮影し、プリントアウトして考察を加えた。その成果は曹洞宗総合研究センターの第 14 回学術大会にて、中世末期から近世初頭にかけて曹洞宗の公案禅に大きな一を占めた快庵派の影響について発表した。

研究成果の概要（英文）：

My study on the 'soden' material of Medieval Zen Buddhism in Japan are divided into two field (Rinzai-sect and Soto-sect). On the Rinzai-sect I compiled the catalogue of the Matsugaoka-bunko library and published "study of 'Koan' Zen of the medieval Zen Buddhism" (Kokushokankokai, Tokyo, 2011). On the Soto-sect I surveyed the manuscripts in many temples of the Soto-sect (Tochigi-pref.: Daichuji-temple, Ibaragi-pref.: Koutaiji-temple, Saitama-pref.: Saikoji-temple, Nagano-pref.: Daianji-temple and so on). On these survey I presented a paper at an academic conference on the influence of the Kaian-school in the medieval Soto-zen.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000 円	300,000 円	1,300,000 円
2011 年度	800,000 円	240,000 円	1,040,000 円
2012 年度	700,000 円	210,000 円	910,000 円
年度			
年度			
総計	2,500,000 円	750,000 円	3,250,000 円

研究分野：仏教学、中世禅宗史

中世禅宗、相伝資料、密参録、代語、門参、切紙、臨済宗、曹洞宗

科研費の分科・細目：

1. 研究開始当初の背景

中世禅宗の研究はこれまで歴史学（仏教史学）においてめざましい研究成果が出されて

きた。たとえば広瀬良弘『禅宗方展開史の研究』（吉川弘文館）・葉貫磨哉『中世禅林成立史の研究』（吉川弘文館）などがその代表的

成果であるが、これらの研究は中世に飛躍的に教線を伸張させた禅宗教団の展開を歴史的視点から究明しようとした成果であり、基本的には中世の支配体制や権力構造を寺院勢力の展開から明らかにすることが中心的課題であった。

一方、当時の禅林においては鎌倉時代の禅宗とは異なる中世後期独特の公案禅（密参禅）が盛んであったのであり、こうした秘伝的文献については、これまで国語学の抄物研究（金田弘・樋渡登、等）の分野において最初に検討されていたのであるが、この国語学の一分野としての抄物研究も中世の貴重な口語資料として研究対象とされたのであり、公案の秘密伝授に関する内容的研究はなされていなかったといえる。

近年、石川力山・飯塚大展氏らの研究者によって禅宗研究の一分野として進められつつあるが、いずれにしても残された文献が膨大であり、多くの資料が翻刻されず未整理の資料もまだ数多く存在する。

こうした相伝資料の研究がいまだ多くの資料的またこれまでの禅宗研究が宗学という江戸期に成立した研究が中心的位置を占めており、特に曹洞宗においては道元禅師の『正法眼蔵』を中心とした宗学が確立され、中世の公案禅の反映である相伝文献（門参・切紙等）はないがしるにされてきた、もしくは江戸期の宗学において否定されてきたといふことの反映であるともいえる。

2. 研究の目的

本研究は、日本の伝統文化に見られる「型」の文化の諸事象がどのように当時の日本人に機能し活用されていたのかを考察することが最終的な目的であるが、その前段階として茶道等の日本の伝統芸能にも影響を与えた中世禅宗の公案禅を検討し、それらにみられる相伝資料を分析することによって、禅林における公案解釈や型の形成の問題を検討する。

この研究は拙著『中世禅宗文献の研究』（国書刊行会）で扱った文献（相伝資料）を基軸としつつも、さらに資料的に補完しより具体的な中世禅林の公案修行・叢林行事等について明らかにしていくことを目的とする。

3. 研究の方法

中世禅宗の相伝資料について研究では、まず研究対象となる資料をできるだけ多く収集・閲覧・撮影することが前提となる。この相伝資料は通常の文献と異なり、師資相伝という特殊な伝承形態に基づいて成立する文献であり、本来的に秘密伝授（密伝）された文献である。末尾にはしばしば「他見を許さず」という記述が見出せるが、このような奥書に散見されるただし書きは華道や茶道の

相伝資料においても同様であり、こうした傾向は現代にまで及んでいる。

ところで中世禅宗において公案解釈の秘訣を記した相伝資料は、臨済宗では密参録・行巻といい、曹洞宗では門参・参・切紙といわれる文献群であるが、この秘密伝授された文献が、中世の禅林における叢林儀礼や公案修行において機能してきたのである。しかるにこの密参録・行巻等を研究対象とすることは、特に公案修行に大きな意義を認めている立場からすると、そもそもこうした文献群を研究対象としてよいかということが問題となるのである。また資料を提供する寺院にあっても、こうした公案の秘訣を示した文献を安易に見せてよいのだろうかという見方も当然存在するのであり、資料の扱い方そのものも難しいことが予想される。

こうした点は特に公案を重視する臨済宗系の寺院調査において調査そのものを困難ならしているのであるが、日本の禅を欧米に紹介したことで知られる鈴木大拙によって蒐集された禅籍を中心とした和漢書の中に多くの密参録資料が見出され、現在松ヶ岡文庫に所蔵されている。この文庫に所蔵される資料は臨済宗寺院では閲覧することのできない相伝資料であり、かつ成立年代も比較的古い貴重な資料群が含まれており、これらの資料は本研究において欠かせぬ資料である。いずれにしても臨済宗系の相伝資料（大徳寺派・妙心寺派・幻住派の密参録ならびに語録抄・下炬文献など）の概要が、この松ヶ岡文庫蔵書で把握できるのである。現在松ヶ岡文庫の資料は研究者が撮影・複写することは原則として禁止されており、お茶の水図書館の成實堂文庫と同様に閲覧者は筆写することが許可されるだけであった。最近1冊20万円で撮影を許可される方針が打ち出されたばかりであるが、このような高額な条件では資料撮影して研究することは実質上困難であろう。加えて松ヶ岡文庫の場合、成實堂文庫と異なるのはその所蔵目録が完備しておらず、これまで書名のリストが若干の書誌情報とともに『松ヶ岡文庫研究年報』に掲載されたものの、それは同文庫の蔵書のすべてではなく、その書誌情報も写本と版本の区別や著者名、蔵書番号を欠いたものである。したがってこれらの資料を1点1点確認しながら書誌情報を入れてデータベース化することが必要であり、まずこの約6000点の資料群の書誌データの打ち込み作業を行い、この資料の全容を明らかにする作業を行うことにした。この作業は相伝資料研究に有益であるばかりか、禅宗研究においても大きな意味をもつであろう。

代語資料一方曹洞宗系の相伝資料としては、中世曹洞宗の中で最も盛んに門参資料を成立させた系の相伝資料（門参文献や代語抄

等)の写本の撮影ならびに資料蒐集を実施し、相伝資料のリストを作成しその文献整理を行い、『中世禅宗文献の研究』を補完させながら資料の分析・検討を行っていく。特に松ヶ岡文庫では臨済宗系の資料の他に相伝資料である門参文献の公案理解に重要な意味をもつと考えられる代語資料が所蔵されており、それらの資料について撮影し、これを影印化していくことが意義ある作業である。

4. 研究成果

まず臨済宗系の相伝資料については、松ヶ岡文庫の資料、約6000点を書名・撰述者・書写者・編者、刊行年、刊行者、書写年、写本か版本かの区別、形態(折り本・冊子等)についてデータをExcelに入力することができた。そのデータの入力例を2例ほど示すならば次の通りである。

① ハ・518・1-6

鼓山晩録、六巻六冊、版本、冊子、鼓山永覚、道順録、京都・林伝左衛門、天和元年

② ハ・529

成合雲山和尚語録、一卷一冊、版本、冊子、智龍編、京都・小川多左衛門、明和六年
内題 成合雲山和尚語録

これによって臨済宗系の貴重な禅籍を中心にした同文庫の和漢書目録のデータベース化することが可能となったのであり、松ヶ岡文庫では将来的にこの成果に基づいて冊子化していく方針が打ち出されている(現在2015年の鈴木大拙没後50周年の記念事業としてこの目録出版が計画されている)。

また2010年度にお茶の水図書館成實堂文庫(撮影・複写不可)において大徳寺派の相伝資料を中心に閲覧し書写した。

また臨済宗寺院における調査としては大仙寺(岐阜県八百津町)において妙心寺派関係資料について調査・撮影した。

こうした臨済宗系の相伝資料の成果については2011年2月に国書刊行会より『中世禅宗における公案禅の研究』(2010年度科研費公開促進費採択)として刊行した。これは中世臨済宗の大徳寺派・妙心寺派・幻住派の文献を整理した旧稿を改訂増補してまとめたものであるが、その出版作業において、松ヶ岡文庫・成實堂文庫・大仙寺等の資料館・寺院における調査によって、多くの点について補完できた。とりわけこの著書において特筆されるのは、大徳寺派・妙心寺派・幻住派の各相伝資料(『碧巖録』第1則から第10則までの密参や幻住派密参録)を翻刻紹介することができたことである。また本書では特に第1章において大徳寺派・妙心寺派・幻住派の密参録を研究したもので、特に臨済禅で現在もテキストとして使用されている『宗門葛藤集』が妙心寺派の東海派の密参録に起源することを確認した。また幻住派という中世か

ら近世に展開した独特の公案禅のルーツを吉田兼俱と月舟寿桂との直接的交流からその独特な公案理解が係吉田神道由来のものであることを指摘した。

次に曹洞宗系の相伝資料に関する研究成果であるが、まず松ヶ岡文庫蔵の典籍には一部曹洞宗系の禅籍も含まれており、その中には中世から近世初頭にかけての公案禅に関する重要な文献が含まれている。たとえば禅林において年分行事にちなんで公案を提示してその見解を提示する代語資料は相伝資料研究においても、その公案解釈を理解する上で代語抄とともに有益な資料であるが、同文庫に所蔵されている『勝国代』や『一閑祖峰代語』は版本でありながらも、他に伝えられておらず、現在のところ孤本として大変貴重な資料である。この2点については松ヶ岡文庫に許可料を納入した上で撮影し影印資料を作成した。

また『巨海代』について禅籍研究会を立ち上げて講読会を開催し、その成果を「代語資料研究」第1巻として冊子化した。

この他、資料撮影した所蔵寺院は大中寺(栃木県大平町)、泉泰寺(茨城県かすみがうら市)、大安寺(長野市)、松代文庫(真田宝物館 長野市)、岸澤文庫(静岡県焼津市旭伝院)、六地藏寺(茨城県水戸市)、西光寺(埼玉県小川町)等であり、これらの寺院において相伝資料(門参・切紙)ならびに代語等の資料を撮影し、これをプリントアウトして冊子化して整理した。

また中世曹洞宗においては北関東に展開した了庵派の一派快庵派が中世末期の公案禅に決定的な影響を及ぼしていたことを曹洞宗総合研究センターの第14回学術大会において発表した。

また寺院調査の過程において、近世の宗学において大きな役割を果たした月潭全龍の真筆本を見出し、これを翻刻・書き下しをして注記・解説をつけて出版した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

- ① 安藤嘉則、龍淵寺十三世叱潤長牛和尚の語録(『叱潤録』)について、『太平山龍淵寺誌』、査読無、2011年、65-71)
- ② 松ヶ岡文庫禅籍目録研究班(安藤嘉則他)、松ヶ岡文庫所蔵の禅籍について(三)―中国禅籍とその注釈書を中心に―、松ヶ岡文庫研究年報、査読無、第25号、2011、69-91
- ③ 松ヶ岡文庫禅籍目録研究班(安藤嘉則他)、松ヶ岡文庫所蔵の禅籍について(四)―

五山関係の諸記録を中心に一、松ヶ岡文庫研究年報、査読無、第 26 号、2012、57-80

- ④ 松ヶ岡文庫禅籍目録研究班(安藤嘉則他)、松ヶ岡文庫所蔵の禅籍について(五)、松ヶ岡文庫研究年報、査読無、第 27 号、2013、20-35

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 「中世末期から近世初頭における快庵派への参学について」第 14 回曹洞宗総合研究センター学術大会、2011 年

〔図書〕(計 2 件)

- ① 安藤嘉則、国書刊行会、中世禅宗における公案禅の研究、2011、662
② 安藤嘉則編、国書刊行会、月潭全龍和尚語録、2012、299

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 嘉則 (ANDO YOSHINORI)

研究者番号：3025030

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし